「女子大生誕生 110 周年・文系女子大生誕生 100 周年記念式典」佳子内親王殿下おことば

令和 5 年 9 月 30 日(土)

本日、「女子大生誕生 110 周年・文系女子大生誕生 100 周年記念式典」が開催され、皆様にお会いできましたことを大変うれしく思います。

この催しに出席するにあたり、東北大学からいただいた資料や書籍、関係する方々のお話をはじめとする様々な情報に触れたことは、私にとって、とても貴重な機会でした。その際に学んだことを含め、お話させていただきます。

東北大学は、1907 年に、日本で 3 番目の帝国大学として設立されました。その当時、帝国大学に入学できたのは、旧制高等学校の出身者である一部の男性に限られ、女性は入学できませんでした。そのような状況の中、設立から数年後、優れた学術研究による社会貢献を目指していた東北大学は、多様な人材を求めるために、旧制高等学校の出身者以外にも受験資格を広げ、その中に女性も含まれていました。今から 110 年前の 1913 年、帝国大学として初めてのことでした。男性に限定されていた受験資格を女性にも拡大するという方針には、当時の政府から疑問が出されました。それでも優秀な学生を集めるため、東北大学が、女性を受け入れるという方針を実行したことは、大切な一歩だったと感じます。

こうして 3 人の女性が、東北大学で化学と数学を学び始めました。この時に入学した黒田チカさんは、後に、玉葱に含まれる成分が血圧を下げる作用を持っていることを発見なさいました。丹下ウメさんは、ビタミンに関する研究で農学博士の学位を授与されました。

また、1923 年、東北大学に法文学部が設置された際には、女性の学生も心理学と哲学を学び始めました。

さて、日本の大学生に占める女性の割合は、2022 年は 45.6%でした。しかし、専攻分野によって女性の割合は大きく異なり、理工系はとても低い状況です。なぜでしょうか。

2018 年の OECD の学習到達度テストにおける、高校 1 年生の数学リテラシーの点数を比べると、日本の女子の平均は 522 点で、日本の男子の平均よりわずか 10 点低いものの、OECD の男子の平均より 30 点も高かったそうです。また、科学リテラシーの点数では、日本の女子の平均と男子の平均に統計的な有意差はありませんでした。ところが、2021 年時点で、大学に進学する人に占める女性の割合は、自然科学分野では、36 カ国の平均 52%に対し日本は 27%で、工学分野では、36 カ国の平均 26%に対し日本は 16%しかありませんでした。せっかくの高い能力が十分に生かされていないことは、残念です。

女性が理系を選びにくい背景の一つには、社会の作り出す雰囲気があると言われています。例えば、心理学の研究で、難易度の高い数学のテストを行う前に「今までこのテストでは、成績に性別で差があった」と伝えた場合、女性の平均点は男性よりも低く、「成績に性別で差はなかった」と伝えた場合、女性の平均点は男性と同等だったという結果があります。このように、周囲からの声かけが、女性の理系科目に対する意欲や成績を低下させてしまうことがあるそうです。しかし、「女性は理系科目が苦手」ということはありません。

今回は東北大学が力をいれている活動の一つである理系分野での女性の活躍に関係することを取り上げました。しかし、偏見が作り出す社会の雰囲気や圧力は、あらゆる状況で数多く存在します。理系に関するものや、女性に対するものだけではありません。そして、そうした雰囲気や圧力が、社会が個人の可能性や選択肢を制限したり、個人が自分自身の可能性や選択肢を制限したりすることにもつながっていると感じます。

東北大学は、このような中、現状をより良い形に転換するために、積極的に取り組んでおられます。例えば、「サイエンス・アンバサダー」という取り組みでは、大学院生が科学の楽しさを一般市民や若い世代に伝える活動をしています。さらに、東北大学は昨年、「東北大学ダイバーシティ・エクイティ＆インクルージョン推進宣言」を発表しました。そこでは、ジェンダー、年齢、障がい、民族などに関わる無意識のバイアスを払拭する啓発活動を実施し、意識改革を行うとされています。全ての学生や教職員が能力を最大限発揮できる環境を提供し、多様な構成員の誰もが歓迎され、支援され、評価される組織を実現するという目標が、強く印象に残っています。同質な集団で、同じような考え方ばかりを共有するのではなく、いろいろな人が力を発揮し、意見を交換できる環境であることは、非常に大切です。このような環境では、新しい視点や価値観を歓迎し、あたりまえと感じていたことに疑問を持って、これまでになかったものを見出し、つくり出すことができると思います。また、ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョンの理念を持った場所で育った人材は、この理念を生かしながら様々な形でリーダーシップをとり、新たな人材を育成し、この理念を社会全体に広めていくことができると思います。

この分野で力を尽くしてこられた方々に深く敬意を表しますとともに、この度受賞される方々に心からお祝いを申し上げます。

このような取り組みが、ますます進み、広がっていき、誰もが安心して暮らせる社会になることを、誰もがより幅広い選択肢を持てる社会になることを、そしてこれらがあたりまえの社会になることを心から願っております。終わりに、皆様のご努力が実を結び、より良い未来につながることを願い、式典に寄せる言葉といたします。ありがとうございました。